

新年あけましておめでとうございます

東日本大震災から3年9ヶ月が過ぎました。未だ復興のめどは立たず、放射性物質は放出され続けています。先の衆議院解散総選挙は、残念ながら安倍自民党の圧勝で終わりました。この結果、被災者の声を無視した原発推進・再稼働は確実に進んでいきます。そして、集団的自衛権の行使を容認する閣議決定や憲法9条を改正し、戦争のできる国づくりに着々と進んでいきます。私達は安倍政権の暴走を許さず、多くの仲間と共に反原発、反戦平和の闘いを展開していかなくてはなりません。

会社はリニア建設に向け地域住民の声も聞かず、なりふりかまわず突き進んでいます。そして『規律と忠誠心』のもと労務管理を一層強化してきています。昨年夏季・年末手当をカットされた仲間の労働審判を闘ってきました。しかし、会社側は非違行為を現認・指摘した管理者の名前すら明らかにせず、日時も何日頃などと曖昧な回答だけでした。報告した管理者がいるからこそカットされたのです。管理者の名前はすぐに出せるはずです。社員の生活に関わる問題にもかかわらず、あまりにも無責任な対応に呆れてしまいます。『喚呼間違い』などのほんの些細な事象や管理者の恣意的判断で手当をカットされたものではたまったものではありません。管理者の誤った作業指示によって感電労災させたことの方がよっぽど悪質です。

1月には、新たな労働審判Ⅲも始まります。理不尽な会社の手当のカットを許さない闘いを進めていきます。

職場では「スーツを着てこい!」、日勤者には「8時前の通勤バスに乗れ!」「作業着の下に色つきのTシャツは着るな!」「作業着の胸ポケットはボタンを止めろ!」などと、まるで研修センターか?! と思えるほど、服装や行動にもやかましくなってきました。研修センターと現場を一緒にされては迷惑な話ですが、それに加えQC、提案、知悉度テスト、点呼時における口答諮問、NT活動、各プロジェクト、そして手当のカットの口実にされている『標準化の点検』などで社員を縛りつけています。これでは若手社員は疲れてしまい、嫌気もさすのは当たり前です。その管理体制によって若手社員が職場を去ったと言う話をよく聞きます。これで会社の言う明るい職場などできるのでしょうか? できるはずがありません!! 私達と共に声を出していきましょう。明るく働きやすい職場をつくるために。

また新たな1年が始まります。反原発、戦争のできる国づくりに反対し、平和な国にするために、そして縛りのない働きやすい職場をつくるために奮闘していきます。

本年も宜しくお願い致します。

JR 東海労働組合東京車両所分会
執行委員会